

廿日市市景況調査(2017年10~12月)

◇旧廿日市市(合併前の区域)の調査結果になります◇

全国の12月景況「業況D Iは、改善続く。先行きは慎重な見方が残るも横ばい圏内の動き」

12月の全産業合計の業況D Iは、▲13.3と、前月から+1.6ポイントの改善。
電子部品や自動車関連の生産が引き続き堅調に推移し、消費の持ち直しから小売業、サービス業を中心に売上が改善した。
株価上昇を背景に高付加価値品の売上が増えたほか、例年より早い気温の低下に伴う冬物商材の動きや、インバウンドを含む観光需要の拡大を指摘する声が聞かれた。他方、深刻な人手不足に加え、鉄鋼、農水産物などの仕入価格や運送費の上昇、食料品・日用品に対する消費者の低価格志向を指摘する声が依然として多い。中小企業の景況感は総じて緩やかな回復が続くものの、その動きには鈍さが見られる。

先行きについては、先行き見通しD Iが▲16.6(今月比▲3.3ポイント)と悪化を見込むものの、「好転」から「不变」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。消費の持ち直し、インバウンドを含めた観光需要拡大、輸出や設備投資の堅調な推移などへの期待感がうかがえる。他方、人件費の上昇や受注機会の損失など深刻な人手不足の影響や原材料費・燃料費・運送費の上昇、コスト増加分の販売価格への転嫁遅れを懸念する声も多く、中小企業においては先行きに慎重な見方が残る。

会議所管内の10~12月景況「人手不足・人件費増加が今後の課題」

前年同期比では、全産業合計の総合業況D Iが▲15.1と、前回調査(29年9月▲16.9)からマイナス幅が1.8ポイント改善した。

産業別の業況D Iでは、製造業で1.4ポイント悪化、建設業では11.1ポイント改善、卸小売業では1.3ポイント悪化、飲食・サービス業では0.8ポイント改善している。

向こう3ヵ月(1~3月)の先行き見通しでは、全産業合計の総合業況D Iが▲32.1と前回調査(29年9月▲8.5)からマイナス幅が23.6ポイント悪化した。

産業別では、製造業でマイナス25.9ポイント(7.7→▲18.2)、建設業でマイナス32.2ポイント(10.0→▲22.2)、卸小売業でマイナス24.4ポイント(▲28.0→▲52.4)、飲食・サービス業でマイナス16.7(0.0→▲16.7)と、全産業で大きく悪化する結果となった。

前年同期比の景況感は業種により明暗が分かれる結果となったが、全業種の先行き見通しでマイナス幅が増加しており、全国的な人材不足・人件費の増加傾向に加え、原材料・仕入価格上昇に伴う採算性の悪化が覗える。特に仕入単価・原材料価格の上昇、燃料・輸送コストの増加など、企業努力だけでは改善し難い外部要因による影響が懸念される。

各事業所から寄せられた業界の動向や取り組み、景気に関する声は次の通りです。

製造業	『原材料の高騰により採算性悪化』『取引先の好況により好転』『受注増により好転』
建設業	『大きな工事の受注が多かったため好転』『人材育成と現場力を高める努力』
卸小売業	『金利が低下して経費減』『クラウド・アウトソーシングを用いた外部受注・依頼』 『売上需要が増えない』『外部環境の変化(オーバーストア)』『仕入価格上昇により採算性悪化』 『先行きは若干の減少を見込む』『地域的・業種的に良い話が出ない』『売上増加に重点を置く』
飲食・宿泊 サービス業	『従業員の不足』『忘年会・新年会等の機会、酒類消費量も減少』『魚介類の減少、値上がり』

業種別景況概要	全国(12月)		廿日市市 10~12月									
	全産業		全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲6.0	▲14.0	▲3.8	▲28.3	0.0	▲9.1	11.1	▲22.2	▲28.6	▲57.1	25.0	0.0
採算	▲11.9	▲17.3	▲20.8	▲35.8	▲9.1	▲18.2	0.0	▲11.1	▲42.9	▲66.7	▲8.3	▲16.7
仕入単価	▲37.8	▲34.3	▲37.7	▲35.8	▲27.3	▲27.3	▲55.6	▲44.4	▲33.3	▲28.6	▲41.7	▲50.0
雇用人員	25.6	26.7	24.5	20.8	18.2	18.2	44.4	33.3	19.0	19.0	25.0	16.7
業況	▲13.3	▲16.6	▲15.1	▲32.1	▲9.1	▲18.2	11.1	▲22.2	▲33.3	▲52.4	▲8.3	▲16.7

※ 全国調査の詳細は【日本商工会議所LBO調査】をご参照ください

(対象 173社 回答 53社)

● D I 値（景況判断指數）について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断状況を表す。ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上など実数値の上昇や下降を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

特に好調	50 ≤ DI
好 調	25 ≤ DI < 50
まあまあ	0 ≤ DI < 25
不 振	▲25 ≤ DI < 0
きわめて不振	DI < ▲25

●設備投資は？

10～12月		1～3月 見込み
実施した	土地	0
	建物	2
	機械	6
	車両	6
	O A	0
	その他	0
	計	14
実施していない・しない		41
		40

※複数回答・無回答あり

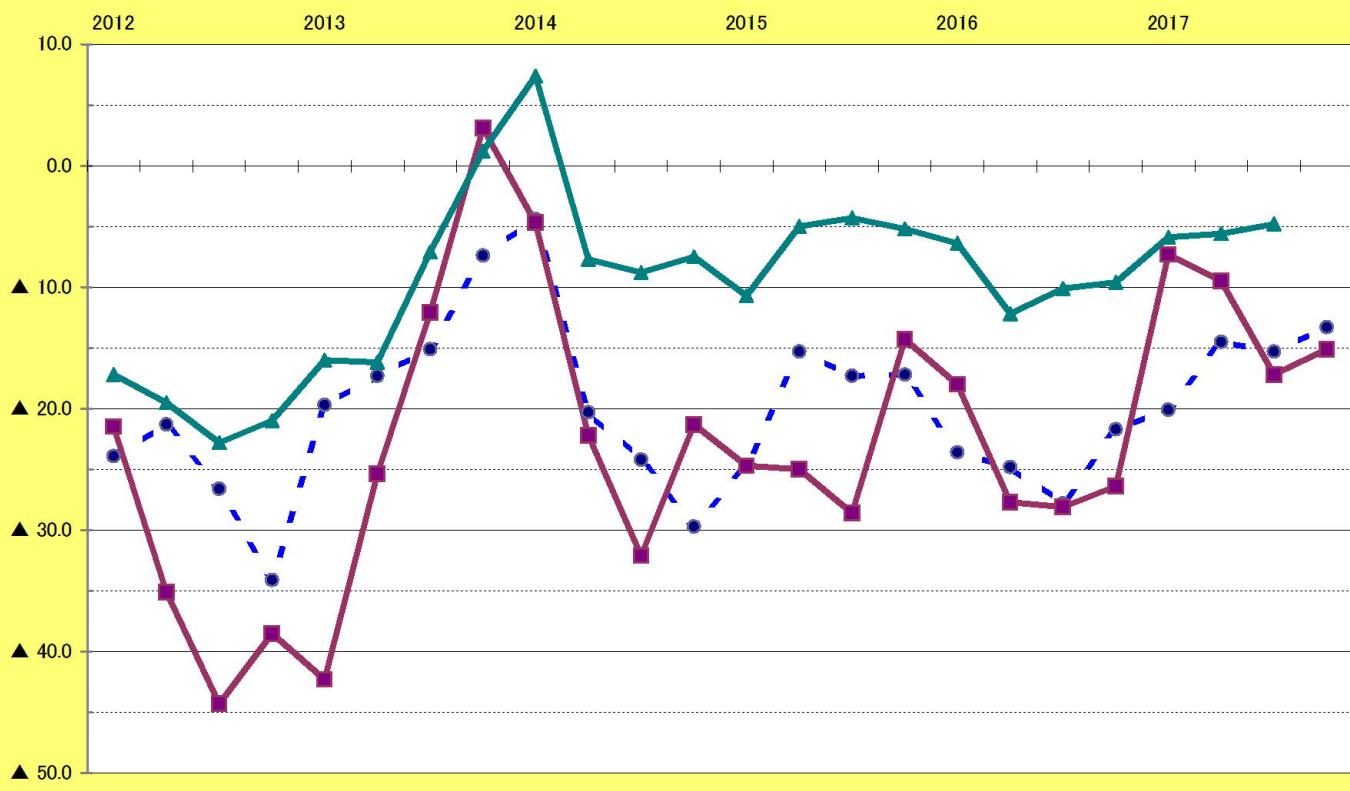
●当面の問題点は？

第1位	売上、需要の停滞	26.4 %
第2位	従業員、人材の確保難	14.8 %
第3位	消費者ニーズの変化の対応	11.3 %
第4位	材料費、仕入価格の上昇	9.1 %
第5位	販売単価の低下、上昇難	8.8 %

※「その他」はランク外扱い

景況DIの推移

■ 全国 ■ 廿日市 ■ 県内



～ご協力、ありがとうございました～